

子どもの「今ある姿」から、 ゆたかな学びの創造を！

- 子どもの行動には必ず理由があります。「あるべき姿」ではなく「今ある姿」から一人ひとりにあった学びを組み立てていきましょう。それぞれにあった学びをすすめることは「学ぶ場」を分けることではありません。同じ場で互いを知り、支えあう関係性を大切にしていきましょう。
- 子どもの感性や心情は柔らかく、様々にかたちをかえます。教育がある「型」にはまってしまうと、子どもたちは窮屈さを感じてきます。学力の数値化で、子どもたちみんなに同じことを求め、同じ力を身につけさせることを求める指導になっていませんか。数値化での学力や評価等は、ほんの一部でしかありません。何もかも同じようにするとりくみではなく、子どもたちの抱えている悩みや葛藤の背景をつかみ、子どもたちの思いや願いに寄り添うとりくみをすすめていきましょう。
- 「ねえねえ、ここ教えて」「そうか、わかった！」「なるほどね！」の子どもたちのつぶやく声が、ゆたかな学びにつながります。学ぶことが楽しく、生活や社会との結びつきを感じられることが重要です。自らを表現し、語りあえる人間関係や環境づくりをすすめていきましょう。

